

平成21年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470800622	事業の開始年月日	平成15年2月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会			
事業所名	グループホーム そよ風			
所在地	(236-0022) 横浜市金沢区町屋町11-16			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9	名
		ユニット数	1	ユニット
自己評価作成日	平成21年12月1日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月10日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://center.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ◆ 役所、スーパー、商店街など地域の便利さという特性を活かし、地域の方々と多くの触れ合いのある生活ができる。
- ◆ 地域の行事(敬老会等)に積極的に参加している。
- ◆ 法人本部が総合病院のため、医療面でのサポートが受けられる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成22年1月13日	評価機関 評価決定日	平成22年3月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- ◆ 「安心と安寧に満ちた生活」を理念に掲げ、サービス提供の指針としている。利用者が穏やかで安心して暮らせるように、利用者の希望を第一に考えて支援をしている。
- ◆ 事業所の周辺には、昔ながらの駄菓子屋や魚屋のある商店街、大型スーパー、寺社、公園、公共施設等があり、毎日のように散歩に出かけている。時にはお茶を飲んだり、外食を取り入れて、楽しめるようにしている。
- ◆ 敬老会や夏祭り、カラオケ大会、バーベキュー大会、折り紙教室等に参加したり、地域の知的障害者施設の運動会やバーベキューにも招かれて参加するなどして、地域との交流を図っている。
- ◆ 協力医療機関となっている同一法人の総合病院と連携を図るとともに、利用者の意向により、入居前からのかかりつけ医への受診も支援し、主治医、家族と連絡をとりながら、利用者の健康管理に努めている。
- ◆ 皮膚疾患で医師よりつなぎ服の着用を勧められた場合でも、職員間で話し合い、散歩に誘い気を紛らわすなどの工夫をすることで、つなぎ服を着用することなく、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム そよ風
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、玄関付近に独自の理念を掲示している。また、ミーティングの際、理念を確認している。	「安心と安寧に満ちた生活」という理念と、それを実現するための介護姿勢を掲げ、朝のミーティングで確認し合い、サービス提供の指針としている。散歩や寝る時間等の日課についても利用者の希望に沿い、本人本位の環境づくりを大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の食材、薬、美容等日常的に必要なことは、地域のお店等を利用し、地域の方々と交流できるように努めている。	町内会、敬老会に加入し、地域の夏祭りやカラオケ大会等の行事、折り紙教室等に積極的に参加している。地域の知的障害者施設の運動会やバーベキューに招かれる。散歩の際に、挨拶を交わす地域の方も増えてきたが、今後はそれ以上に深い関わりが持てるようにしていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当グループホームの経験を運営推進会議、入居希望者、見学者等に積極的に伝達している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において、当施設の運営を報告するほか、地域の方々等からお誘いを受け、地域の行事等には積極的に参加している。	2カ月ごとに、利用者、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センターケアマネジャー、施設長(管理者)、職員が参加し、開催している。出席者から、地域行事の案内等を受け、地域行事に参加するなどしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護担当へは、生活保護受給者の状況や高齢者支援担当等へは運営推進会議の報告を行うなど市町村担当者と連絡を取っている。	区の担当課に、運営推進会議開催の報告書を持参している。また、研修の案内を受けて、参加している。現在、介護教室の受託はないが、今後、誰もが気軽に立ち寄って介護相談ができるような事業所にしていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当グループホームは、「身体拘束はしない」という大原則に基づき運営している。	職員会議で全職員に身体拘束に関する資料を配付し、施設長より注意喚起を行っている。日中、玄関に鍵はかけていない。また、皮膚疾患で医師よりつなぎ服の着用を勧められた場合では、職員と話し合い、着衣の工夫や、散歩で気を紛らわすなどで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において、高齢者虐待についての研修、考え方、取り組み方を確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がおり、手続き等が必要な時には、その都度制度の説明を管理者より行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書に沿って説明し、同意していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の関係者の方々には、面会の機会を多く持ち、外出や外泊を薦めている。	重要事項説明書に苦情相談先を掲載し、玄関に意見箱を設置している。家族の面会時に、施設長が現状報告をするとともに、要望等を聞き、朝のミーティングや業務日誌を通じて職員間で共有している。要望により、食事量を改善した例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングにてさまざまな意見を出していただくようにしている。	毎朝20～30分かけてミーティングを行い、職員から意見を出してもらうようにしている。職員会議を年2回開催しているが、職員から回数を増やしてほしいとの提案があり、検討しているところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みの希望は、極力希望通りになるよう配慮している。有給休暇も取りやすいように勤務を組んでいる。向上心を持って働くには、休みをきちんと取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修へ派遣したり、外部研修にも参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の他施設の管理者との会議・勉強会を通じ、情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して間もない時期は、職員に入居者と多くのコミュニケーションを取るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る経緯の話を良く聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人、家族の現状の話を良く聞き、対応策を講じている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者本人の気持ちを大事にしたケアを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族になれないという考えのもと、家族には面会の機会を多く持って頂くように薦めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を第一に対応する方針としている。	散歩の際に、利用者が利用していたデイサービスや以前の勤め先に立ち寄っている。一緒に働いていた人が訪ねてくれることもある。また、家族に電話をしたり、日用品を馴染みの店まで買いに行くなど、これまでの関係が継続できるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニケーションが取りづらい場合は、職員が仲介するようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も様々な手続きが必要となることがあり、そのような場合でも必ずフォローしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりの生活リズムを大事にしている。	入居の際に、フェイスシート、アセスメントシートを家族に渡し、ゆっくりと考えて記入してもらうことで、細かく本人の意向・生活歴を把握することにつなげている。利用者一人ひとりの生活リズムを大切に、その変化をミーティングや介護記録、業務日誌等で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室内は、本人の馴染みの物を可能な範囲内で持ち込み、入居者自身の希望に沿った部屋づくりをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活リズムを大事にし、入居者の行動パターンの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、職員からの現状報告、意見、家族の御意見を十分に反映させた介護計画になるよう努めている。	アセスメントをもとに、利用者の日常の様子を踏まえて、介護計画を作成している。介護計画の見直しは、入居時は半年、それ以降は1年ごとに、本人及び家族の意見をもとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さいことも介護記録に記録し、毎日のミーティングでは様々なことを情報交換し、毎日の処遇につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の希望は、入居者それぞれにあるという考えのもと、一人の人間としての生活に即した対応としている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の身体機能を把握し、地域の様々な資源を使用できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望を受けかかりつけ医を決めていただいている。	これまでのかかりつけ医に受診することができ、通院の支援は、家族または施設長が行っている。家族が付き添った場合には、結果を報告してもらい、ミーティングや個人記録に記載して職員間で共有している。緊急時は、協力医療機関に受診できる体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人本部が総合病院のため、必要時には、法人本部に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、様子をこまめに把握することに努めている。その際、医療スタッフに情報を頂くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りは基本的には行っていない。入居時の説明において、重度化した際に備えて、特養の申込を勧めている。入居中に重度化した場合は、次の入所先が決定するまで可能な限りサービスを提供している。	重度化・終末期への対応は行わない方針を入居時に説明しているが、現在、退院して重度化した利用者について、家族と話し合い、他の施設への申込みを依頼しつつ、家族、主治医と相談しながら支援を続けた結果、ADLが向上し、事業所での生活を続けてもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の考えられる緊急事態の対応を入居時に確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の救急対応は、定期的に訓練している。	年2回、消防署と連携して、2階ベランダ側の避難通路を利用した避難、テーブルの下に入る、足の不自由な人から避難するなど、避難訓練を実施している。マニュアル、連絡網を整備し、職員がいる1階台所と2階事務室に置き、非常時の水・乾パン等を備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係を築き、親近感のある対応を心がけている。	「対人援助職のためのコミュニケーション研修」に参加するとともに、職員会議や毎朝のミーティングでは、施設長から職員の態度、言葉遣いを指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身が思いを打ち明けられるような雰囲気作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムを大事にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者自身の嗜好を大事にしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が食事作りをしている中で、入居者の好みを大事にし、食事を提供している。	テーブルや茶碗拭きなどを、利用者と職員が行っている。利用者と職員が同じテーブルにつき、利用者の「いただきます」により食事を始め、会話をしながら個々のペースに合わせて食事をとっている。季節感や利用者の好みも取り入れて、食事を楽しめるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態、食事摂取の状況により、個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の個々の排泄パターンを記録し、誘導等を行っている。	排泄パターンを個人記録にチェックし、夜間はオムツ利用者もいるが、昼間は声かけ、誘導を行い、リハビリパンツで対応している。便秘気味の利用者には、職員が排泄状況を把握し、乳酸菌飲料や繊維質の食品を勧めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をもとに個々に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、一日おきを実施している。季節、行事、個人の都合に合わせて、柔軟に対応している。	一日おきに入浴できるよう、日に4人くらいずつ入浴してもらっている。夏にはシャワーを利用したり、水虫のある人には足浴を励行するなど、利用者の体調に合わせて柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、その状況に応じた対応を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、職員が管理している。服薬は、入居者一人ひとりの容器に保管し、服薬時毎に分類し、どの職員でも服薬の支援ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	かつての生活リズムを尊重した生活を送って頂けるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本は毎日散歩の時間を設け、気分転換が図れるようにしている。	ほぼ毎日のように、事業所周辺の寺社や公園・商店街へ、外出を希望する利用者と出かけている。日常的に買い物、外食などの外出支援を行っている。また、地域の行事や、レンタカーを借りて、花見や紅葉狩りに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、関係者との相談により、本人の希望があれば、現金の自己管理ができるようにしている。また、その現金は、外出時自由に使うことができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、施設の電話にていつでも電話ができるようにしている。また、外部への手紙についても自由に出せるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテーブルには、季節の花を飾ったり、季節感を感じられるものを置いている。	鉢植えやベンチのある玄関、対面式の台所、大きな木製のテーブルを中心とした床暖房のある食堂等は、家庭的で落ち着いた空間となっている。階段に昇降機が設置され、車椅子対応のトイレを備えている。また、金魚を飼育しており、利用者が順番で餌やりを担当している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファがあり、入居者同士くつろぎながら過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、本人の馴染みの物を可能な範囲内で持ち込み、入居者自身の希望に沿った部屋づくりをしている。	ダンス、鏡台、仏壇など、居室に馴染みの家具が持ち込まれ、居室ごとに利用者が望むレイアウトに設えている。トロフィーやお気に入りの化粧品などもあり、利用者の個性が感じられる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動きやすく、わかりやすいを基本に家具等をレイアウトしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム そよ風

作成日

平成22年3月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員会議が年2回程度の開催となっており、職員から回数を増やしたほしいと要望がある。	年2回から2カ月に1回の開催を目標とする。	●開催日を早めに決定し、職員に通知する。	6ヶ月
2	13	職員全員に研修を受ける機会が少ない。	●外部研修には、積極的に参加を促し、各職員のスキルにあった研修を管理者が見極め、研修を受講してもらう。	●早めの研修計画を作成し、内容により、参加する職員を決めておく。	6ヶ月
			●外部研修受講後は、施設内において、伝達講習を行い、他の職員へ伝達する機会を作る。	●今年度の研修計画を職員へ通知し、受講後は復命書の提出と伝達講習の実施を義務づける。	6ヶ月
			●介護福祉士、介護支援専門員の資格取得	●介護福祉士、介護支援専門員の資格取得に向けた講習を積極的にじゅこうしてもらう。	6ヶ月～12ヶ月
3	35	災害対策	●消防計画には年2回の避難訓練を実施することとなっているが、職員・入居者への避難の方法を周知するには回数を増やす必要がある。	●正式な訓練を月に1回の頻度で行えると職員にも周知できると考える。	3ヶ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。